

府中のコンパクトシティ

何？

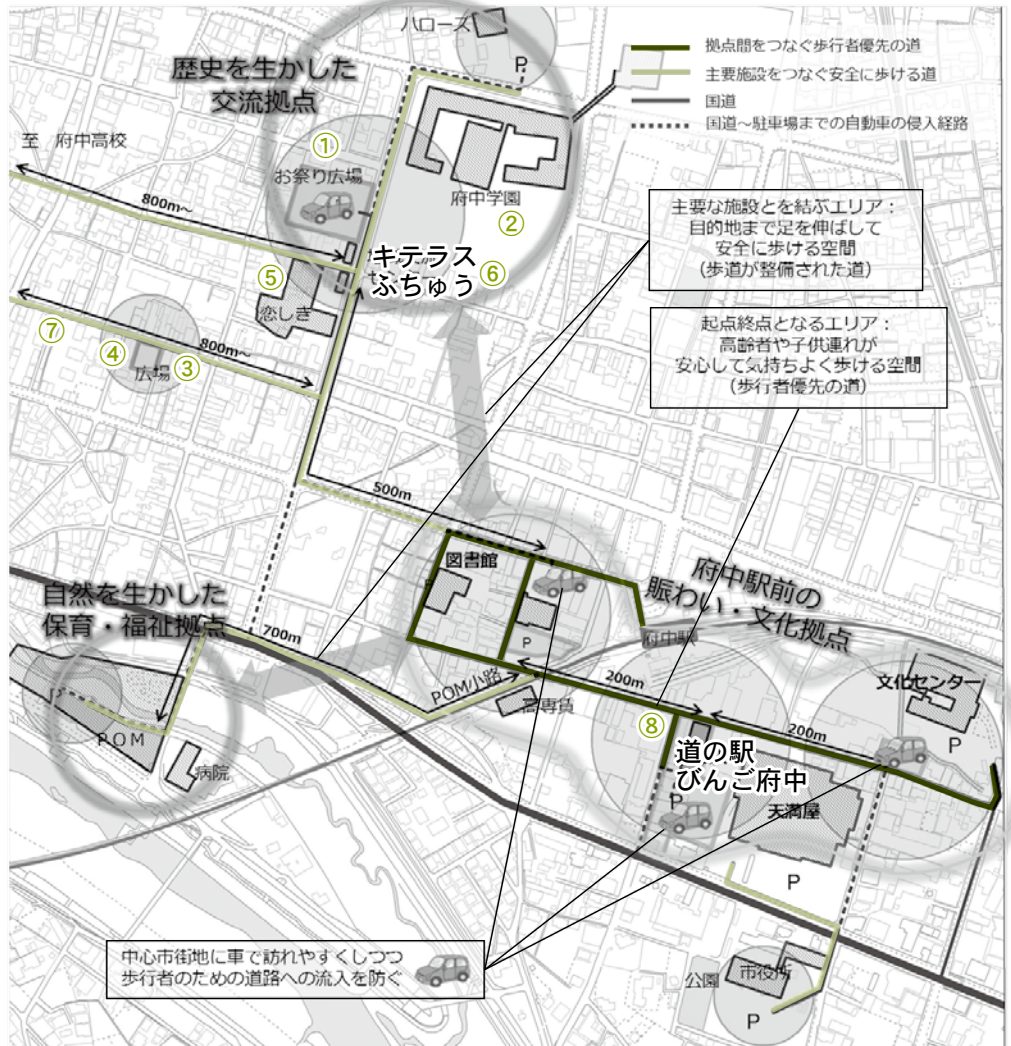
府中市が未来も持続するまちであるために

車社会の発展や経済環境の変化を背景に、商業施設や人口密度が中心市街地から東部に拡散している府中市は、都市基盤であるインフラ整備を非効率にするだけでなく、今後の健康・医療・福祉施策などの公共サービスにも、大きく影響を及ぼすものです。

しかし、既に広がった市街地の面積を縮小することは難しく、現実的ではありません。

人口減少・少子高齢化という社会現象を受け入れ、人口が減っても安心して快適に暮らし、働けるという生活環境を維持するコンパクトシティを目指しています。

第二期府中市中心市街地活性化基本計画「道半ば」



◀道の駅びんご府中を交通結節点に位置付け、市役所や銀行などの各公共公益施設が、歩いていける距離で利用できます。

問い合わせ先 産業振興課（☎43-7190）

教えて、中心市街地整備と道の駅びんご府中

Q1 今は車がなければどこにも行けるから、中心市街地を整備する必要はないのでは？

A1 車が一人に一台の時代になり、生活圏は広がっています。その反面、府中市も高齢化が顕著であり、問題となっています。車が運転できる人もできない人も、日常生活に困らない便利で安心な生活拠点としての中心市街地の確立を目指す必要があります。

今の生活で、車が利用できないとしたら、どんな生活になるでしょうか。

Q2 どうして道の駅を中心市街地へ建設する必要があるの？

A2 道の駅びんご府中を中心市街地の核施設として、賑わいの創出を期待する産業振興の目的だけではなく、バスロータリーを設け、JR府中駅などと連携した公共交通の拠点としての機能を備えます。道の駅に來れば、歩いて回れる範囲で金融機関・病院・公共施設などのサービスを受けることができるようになります。

中心市街地と周辺地域の移動手段を確保

中心市街地には、日常生活をおくるために必要な機能を集約させ、併せて市内のどこに住んでいてもそれらを享受できるように中心市街地との公共交通ネットワークを構築します。車が運転できなくなった場合でも、誰でもサービスを受けることができる体制を実現します。

中心市街地に賑わいを第一期府中市中心市街地活性化基本計画

中心市街地に必要な機能を集約し、賑わいを創出するために平成19年に府中市中心市街地活性化基本計画を策定しました。

第一期（平成19年5月～平成24年3月）では、府中学園の開校、恋しきの保存再生、お祭り広場の整備などを行い、JR府中駅北エリアの賑わい創出に取り組みました。



- ① イベント会場など多目的に使用されるお祭り広場。
- ② 小学校4校と中学校1校を統合し、開校した統合小中学校（府中学園）。
- ③ 商店街の空き地を活用し、NPOが中心となり開催したまちなかマルシェ。
- ④ 商工会議所が支援して商店街の空き家をチャレンジショップに改装し、賑わい創出に。
- ⑤ 交流・迎賓施設として保存・再生した恋しき。

第二期府中市中心市街地活性化基本計画から約3年半が経ちました



点から線への整備第二期府中市中心市街地活性化基本計画

現在工事などを進めている第二期（平成25年4月～平成30年3月）では、府中学園やお祭り広場の近くにキテラスふちゅうをオープン



- ⑥ 平成27年1月にオープンしたキテラスふちゅう。親子で府中焼き体験教室も。
- ⑦ 仮装した子どもで賑わう商店街。
- ⑧ 現在建設中の道の駅びんご府中。10月にオープン予定。

ンし、昨年度延べ約4万5000人の利用がありました。また、ハロウィンイベントが開催され、約1000人の参加があるなど、第一期で創出したJR府中駅北エリアの賑わいを継続・発展させています。

新たに道の駅びんご府中やPOM府中市こどもの国など拠点となる施設の整備を進め、拠点を結ぶ歩道の整備も行うことで、高齢者や子どもが、車などからの危険を感じず、安心して歩ける空間をつくっています。

点と点を線で結ぶ整備を行い、中心市街地の回遊性を高め、歩いて暮らせるコンパクトシティの実現に向けて取り組んでいます。